

# 世界史 B

基礎事項は定着してきた。精度の一層の向上を図ろう。

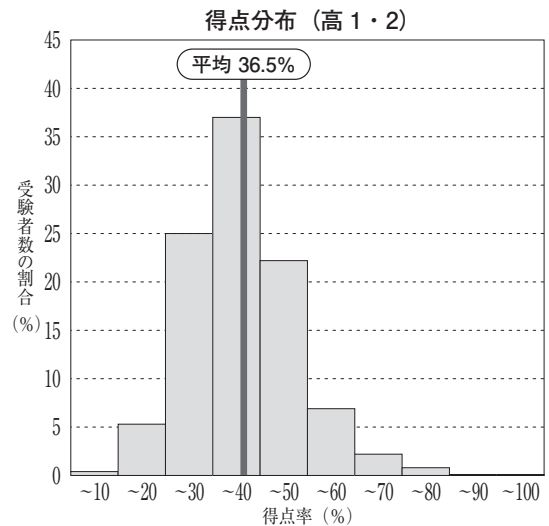
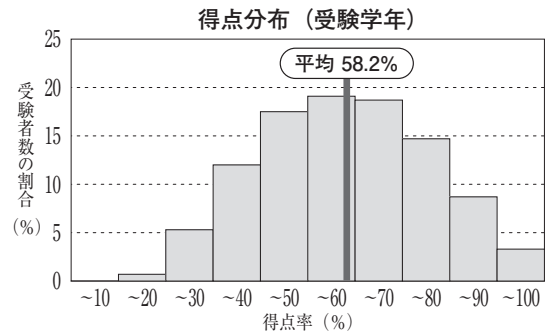
## I. 全体講評

今回の全国統一高校生テストの受験学年の平均点は 58.2 点で、8 月の 49.6 点から大きく伸びた。地域や時代による得点力の差はあまり見られなくなり、正答率の差は主に設問の難易度によるものになってきている。ちなみに正答率ベスト 5 のうち 3 問を近現代史が占める（第 1 問問 9・問 3、第 4 問問 3）一方、ワースト 5 のうち 4 問は古代～中世の設問（第 1 問問 3、第 2 問問 3・問 4、第 3 問問 5）となっている。そのうち 1 問が年代整序 6 択問題（第 3 問問 5）であり、さらに上記の中世の設問（第 2 問問 3）は正誤の組み合わせという形式であるので、これらの難度の高い設問形式への対応力を高めることが今後の課題である。

他方、平易な形式による基本事項の設問であっても、予想外に伸び悩むケース（第 1 問問 4、第 3 問問 1）が見られる。既習分野であっても知識の確実な定着が不十分な箇所がまだ少なからず残されており、学力の精度を高めていくことが今後のもう一つの課題である。

高 1・2 生合わせての平均点は 36.5 点で、昨年の全国統一高校生テスト（34.9 点）より高い結果となった。受験学年と変わらない正答率（76.2%）を得た小問（第 1 問問 9）もあるなど、今後の成績向上に期待できる傾向も現れている。いずれにせよ、現段階ではまずセンター試験の形式に慣れ、現時点での学力を正確に判定して今後の学習に役立てることが重要である。また設問形式などについての受験

学年の弱点の傾向は高 1・2 生にも共通なので、それをよく意識して今後の学習を進めていってほしい。



## II. 大問別分析

### ■各学年の平均点、大問ごとの得点率

学年	平均点	第 1 問	第 2 問	第 3 問	第 4 問
高 1	34.1 点	38.6%	29.1%	30.8%	37.8%
高 2	36.8 点	41.4%	33.1%	33.1%	39.7%
受験学年	58.2 点	63.1%	49.8%	56.1%	64.0%
全員	51.5 点	56.3%	44.4%	48.9%	56.5%

**第1問 島や群島をめぐる世界史**

河川など基本的な地形や国の位置を、地図を使って確認しよう。

第1問の受験学年の得点率は63.1%で大問中第4問に次ぐ好成績であった。とりわけ近現代史が9問中5問を占めていたのかかわらず、得点率が高かったことはすべての年代と地域について基礎力が固まってきたことを表していると思われる。問9のアボリジニーの迫害を答えさせる問題は、世界史だけでなく地理や現代社会でも取り上げられる内容であるから、正答率83.9%と今回の最高になったのだろう。ニュージーランドのマオリも同様に迫害されたこともこの機会に覚えておこう。第1問で2番目の正答率74.8%の問3は、ガリバルディが印象的な人物であることと、誤文がはっきりしていて悩まない内容であったことも好正答率に影響しているようだ。第1問で正答率44.1%と最も低かった問4は残念な結果と言わざるを得ない。バングラデシュがガンジス川流域にあることさえ知っていればできた問題だったからである。こうした失敗を次にしないためには、世界の基本的な地形、国の位置は押さえておく必要がある。教科書の一番前か後ろに現代世界の地図はあるのでしっかり学習しておこう。次に低かった正答率49.7%の問8も基本的な問題だったので残念な結果であった。「コーヒーなどの強制栽培制度が行われた」を33.4%の受験者が誤りとしたこと、「アカプルコ貿易の拠点として、マニラが建設された」ことをオランダ領東インドのこととした受験者が38.0%いたことはともに残念としか言いようがない。

正答率68.3%の問2は、ヘロドトスがペルシア戦争を書いた著作名が『歴史』であったことを知らなかった結果のようだ。ちなみにトゥキディデスのペロポネソス戦争について書いた著作名も『歴史』である。正答率64.6%の問7には、中学校の歴史学習はどうなっているのかという疑問が湧いた。そもそもサハリンに日本は出兵した事実はないし、台湾出兵は日本近代史で大きな部分を占めているからである。

正答率54.6%の問1、正答率59.1%の問5、正答率64.5%の問6は健闘した結果と考える。問1は現代史の問題でバドリオがそれほど著名な人物でなかった結果としては好結果であった。学習がなかなか及ばない16世紀の西アジアの歴史を問う問5と

セイロン島の歴史を問う問6は簡単ではなかった。

高1・2生の第1問の得点率は41.0%で、大問中の最高値となった。これは、全小問のなかで最も得点率が高かった正答率76.2%の問9があったからである。これは、上記したように世界史以外の教科で学んだ結果のようだ。問1・問7は正答率49.5%、正答率43.8%と比較的高かった。これについては、中学で習った歴史を覚えていた結果であろう。世界史Aや世界史Bで既習した結果か、問2と問8が正答率37.9%、39.6%と比較的高かった。今後学習が進めば伸びていこうという可能性をもつ結果であった。

**第2問 世界史における文字・言語**

地域・国ごとに出来事の展開の大枠をつかんでいこう。

第2問の受験学年の得点率は49.8%で、大問中の最低値となった。これは問3、問4、問8が下に引っ張った結果であろう。正答率20.5%の問3で「宋代になると、山西商人、徽州(新安)商人が富を築いた」を正文とした受験者が66.5%もいた。宋代は商業が活性化した時代であるが、正確に覚えておかないと明代の事項を宋代のことにしてしまうという間違いをおかしてしまう。正答率34.7%の問4は誤文選択問題で、漢の武帝が金印を授けたことが誤文であることは簡単であるが、唐の玄宗が市舶司を設置したことを知っている受験者はほとんどいなかったのではないだろうか。光武帝と武帝を勘違いしたのか唐の玄宗が市舶司を設置したことを選択した受験者が33.7%いた。得点率40.7%の問8の時期指定正文選択の問題は、シベリア鉄道の完成の結果、ロシアの東アジア進出に対する防衛戦争として日露戦争が起きたことを思い出せばそれほど難問とは思えない。

正答率83.0%でヒジュラを答えさせる正文選択の問7の結果は満足できるものであった。他の誤文も基本的であったことも得点率を高めた要素であった。近代史の正文選択で正答率64.8%の問6はシャルル10世のアルジェリア出兵を答えさせる基本的問題なので少し残念な結果であった。同じように、正答率52.0%で誤文選択の問2も、西夏を滅ぼしたのがモンゴルのチンギス=ハンという基本的事項を知っていればできる基本問題なので、残念な結果であった。年表補充の問1は正答率44.7%

であったが、シュメール→アッカド→古バビロニア→ヒッタイトの侵入→アッシリア→新バビロニアというメソポタミア文明の流れをつかんでいけば間違える問題ではない。

正答率 53.6% の問 5 と問 9 は健闘した結果である。問 5 については 1972 年 2 月ニクソンが訪中して米中関係が正常化した時期で、1971 年 10 月、国連に中華人民共和国が代表権を獲得してから 4 ヶ月しか離れていないという難問だからである。また問 9 の正誤組み合わせ問題でのドンズー（東遊）運動、タバコ=ボイコット運動も学習が及ばない部分にはよくできていた。

高 1・2 生の第 2 問の得点率は 32.5% で、受験学年と同様に大問中の最低値であった。この大問で興味深いのは正答率 46.2% の問 8 で高 1・2 生が受験学年の正答率 40.7% を上回ったことである。これは高 1・2 生が中学で学んだ日露戦争を覚えていることが原因とも考えられる。米中国交正常化の正答率 49.3% の問 5 も受験学年の正答率 53.6% と同じ程度であった。これも同じ理由と推測される。高 1・2 生にしては正答率 46.5% と高かった問 7 も、さすがに受験学年の 83.0% から大きく差をつけられたのは当然のことであろう。今後の学習で大きく伸びていく可能性を感じさせた大問であった。

**第 3 問 世界史上の医療文化史を補強しよう。とくに西欧文化史と中国文化史を重点的に。**

第 3 問の受験学年の得点率は 56.1% で、大問中 2 番目に低い数値であった。とくに低かったのは正答率 39.6% の問 5 と正答率 36.1% の問 6 であった。問 5 の年代整序は、北宋時代の王安石→靖康の変→南宋での秦檜と岳飛の対立という流れが頭に入っていれば間違える問題ではない。問 6 は朴正熙が韓国初代大統領でないことが意外と知られていなかった結果のようだ。第 3 代大統領朴正熙の開発独裁で韓国の先進国化が進んだことをもっと注目してもいいだろう。正答率 44.7% と正誤組合せの問 8 もふるわなかった。51.5% の受験者が国民会議は労働者を中心に結成されたと思ったようだ。ガンディーが裕福な家庭出身の弁護士であったことを知っていれば誤文であると気づいたであろう。

この大問で正答率が 83.1% と最も高かったのは問 2 で、ブラジルの位置と公用語がポルトガル語

であることさえ知っていればできる問題であった。次に高い正答率 75.6% の問 9 は、中学の歴史で学んだ内容であり、この結果は当然のものであろう。正答率 66.3% のイギリスの植民地拡大を問う問 3 と、正答率 63.5% の後漢時代の党錮の禁を答えさせる問 4 はともに基本的な問題なのでこの時期にはできて当然と考える。

この時期にしては、受験生が苦手な文化史で正答率 48.2% と健闘したのは問 1 であった。最後の追い込みで文化史を補強しよう。とくに西欧の文化史と中国の文化史は必須。ピスマルクの政策を問う誤文選択の問 7 も基本的なものであるから正答率 51.1% は少し低い気がする。

高 1・2 生の第 3 問の得点率は 32.8%。正答率が 57.2% の問 2 と 55.2% の問 9 以外低迷した。問 2 は中学校地理や現代社会で学ぶブラジルの学習の結果のようだ。また問 9 は中学校の歴史で学んだ内容であろうから当然といえよう。後漢時代の問題で正答率が 38.6% と相対的に高い問 4 は、世界史 B で既習済みの生徒が現れ始めた結果のようである。

**第 4 問 世界史上の政治制度社会史の正確な知識を身につけよう。**

第 4 問の受験学年の得点率は 64.0% で、大問中最も高い数値であった。この理由は、この大問で一番低いのが正答率 53.6% の問 9 の現代史の年代整序であるようにまだ学習が及ばない内容を除き、基本事項が安定した結果のようだ。この年代整序も 1956 年 第 2 次中東戦争（スエズ戦争）→ 1960 年「アフリカの年」→ 1911 年アパルトヘイト法的撤廃の流れがわかっていれば間違える問題ではない。次に低かった正答率 55.1% の問 4 は、ハプスブルク家について問う誤文選択の問題であった。フランス革命の犠牲となったルイ 16 世と王妃マリ=アントワネットのことを知らない 44.9% の生徒に驚かされた。

正答率がこの大問で一番高かったのが誤文選択の問 3 で 78.7% であった。ドイツの無制限潜水艦作戦のことがわかっている受験者が多かったことに安堵した。次に正答率が高かったのは問 6 の阮福暎の阮朝建国を答えさせる問題で正答率 74.4% であった。ベトナム史など東南アジア史はなかなか学習が及ばないところであるが、この正答率は今後の成長を考えると勇気づけられるものであった。正答率

69.5% の問 1 も護民官と知事（サトラップ）の役割がきちんとわかっている受験者が 69.5% いることに安心させられた。逆に正答率 68.5% のヴィルヘルム 2 世の「世界政策」を答えさせる問 7 は基本的な問題だったのもっとできてもいいのではという感想をもった。正答率 56.7% のウマイヤ朝のジズヤとハラージュを答えさせる問 2 は基本的な点が押さえられていないと間違える問題である。この時期としては仕方がない正答率かもしれない。中世の百年戦争を答えさせる問 5 は、基本的な問題なので正答率 57.9% は少し低い気がする。文化史と並んで受験生がいやがる社会史の問題である問 8 は正答率 60.2% で健闘していた。

高 1・2 生の第 4 問の得点率は 39.5% であった。受験学年と同程度の正答率を示したのが正答率 48.0% の問 2 と 54.5% の問 8 と 46.7% の問 9 であった。受験学年からは差がついたが正答率 53.1% の問 1 も 46.8% の問 3 も健闘していた。世界史 A や世界史 B の学習が進み、その結果が出ているのかもしれない。既習の部分も増えてきているであろうが、それがまだ結果につながっていない。学習済みの分野における知識の確実な定着が大きな課題のようだ。

### Ⅲ. 学習アドバイス

#### ◆受験生及び既に受験勉強に励んでいる人へ

##### (1) 現時点の学力を正確に把握しよう。

どのような模試であれ、模試は受けた後の活用の方が大切である。現時点での学力を客観的に分析し、本番に向けての学習計画に反映させることが肝要である。模試を通じて学習するということを実践してほしい。

##### (2) 基本事項の確認を徹底しよう。

センター試験では様々なテーマのリード文にもとづいて設問が出されるが、各小問自体は教科書レベルの基本事項が大半である。もう一度よく基礎を確認し、ムラのない学力の養成に努めよう。

##### (3) タテとヨコの学習の融合を図ろう。

まず教科書を基本に各地域のタテの歴史の流れを確実に把握することが大前提であるが、この学習を終えた後は、同時代の世界の出来事を整理するヨコ

の学習に力を入れよう。時期指定問題や年代整序 6 択問題は頻出であり、タテとヨコを合わせた学習の整理が不可欠である。その際、重要事項については年号もともに覚えておくことが非常に効果的な対策となる。

##### (4) 立体的な学習に努めよう。

地図や図版などを用いた設問もセンター試験で頻出である。すでにこれらを参照しつつ学習を進めてきたこととは思うが、まだ弱点と感じられる時代や地域の地理的・視覚的把握に万全を尽くそう。また、文化史もセンター試験で頻出の分野。美術などは図版問題の格好の出題分野である。文学や学術その他の面についても、政治や経済、社会との関連の中で事項を整理することが効果的である。

#### ◆これから本格的な受験勉強に取り組む人へ

##### (1) センター試験の形式・内容を把握しよう。

現時点の得点をとくに気にする必要はなく、まずセンター試験がどのような形式・内容であるかをよく知ることが大切である。本番のセンター試験ではリード文が教科書ではあまり見慣れないものである場合が少なくないが、個々の設問は教科書レベルの知識で十分正解できるものなので、決して恐れる必要はない。何よりも幅広くムラのない基礎的知識が根本的に重要である。

##### (2) 学習計画に沿って基礎力を固めよう。

高 3 生での急速な成績の伸びが十分に期待できるので、とくに現時点で慌てる必要はないが、学習計画に沿って着実に基礎力を固めていくことが高 3 生の追い込み段階での成績の大きな伸びの土台となる。

センター試験の形式・内容に慣れるのと並行して教科書の順番に沿って各地域・各時代の基本的な流れをしっかりと把握しよう。現時点では時間軸に沿ってタテの流れをまず押さえることが重要である。これがしっかり身につけていない段階で同時代のヨコの歴史の整理に入るとかえって混乱してしまう危険が大きい。時間はたっぷりあるのだから焦らず着実に学習を進めていってほしい。

##### (3) 年号を把握し有力な武器としよう。

最近のセンター本試験では年代整序 6 択問題や年

表補充問題，時期指定問題など時代の前後関係を問う設問が頻出である。中にはある程度細かい年代の把握を迫る設問もある。この種の設問への対策としては，重要事項の年号自体を記憶するのが実は一番の近道である。いくつかの基本事項の年号がしっかり把握されていると，そこを手掛かりとして時間軸の流れが非常に理解しやすくなるとともに，同時代の出来事も一層把握しやすくなる。

#### (4) 立体的学習に留意しよう。

センター本試験では地図・図版などを使った出題も頻出である。教科書の他，図説・資料集等を用いて常に地理的また視覚的理解を合わせて行うことが不可欠である。その他，文化史もセンター試験で頻出であり，その時代背景としての政治や経済・社会と関連づけて事項を把握するのが効果的である。